

日々の暮らしに

香川芳子

女子栄養大学学長

即、結果は出なくても 必要なところにも 国家予算を使うべきです

2010年度の国の予算が決まりました。行政の事業仕分けがメディアで放映され、税金の使い方を身近な問題として考えたかたも多いことでしょう。科学の振興や子育て、教育のように長い時間をかけて結果が出るものは多々あります。だからこそ国のリーダーシップが必要で、結果が出なければ即、切り捨てでは今まで積み重ねた研究も無となります。

たとえば、戦後、日本人の食生活改善運動を支えた各地の食生活改善推進員制度があります。食生活の問題を改善するために、地域

の人々と直接かわり、実践に導いて成果を上げた縁の下の力持ちです。塩分摂取量が多かった東北地方の人々に減塩の必要性を訴え、高血圧や脳卒中の患者を減らして、長寿社会の実現に導きました。

今回、タバコが1本あたり5円の値上げとなりましたが、1箱1000円にするなどの思いきった政策を断行すれば、医療費の抑制に大きな成果が得られるでしょう。国家予算の決定が国民の人気とりでは困ります。ただ節約すればよいのではなく、一つ一つ吟味して必要なところに使うべきです。